



コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュースレターNo. 142

2016年8月



コルネリオ会に期待すること

井草晋一 コルネリオ会 教職顧問 (関西地区)・ピヨ バイブル ミニストリーズ 代表
日本メノナイトブレザレン教団 武庫川キリスト教会 協力牧師

長男が陸上自衛隊の入隊を希望したことで、2003年11月に中野久永副会長にお電話しました。当時の石川信隆会長をはじめ、コルネリオ会の皆様から心のこもったお祈りと励ましを頂き、皆様との出会いと交わりが始まりました。

この時の親としての不安な思いや信仰上の課題について、中野兄からの助言とメンバーの皆様の祈りの支援をいただきましたことは、私たち夫婦や本人、家族にとってとても大きな励ましとなりました。主イエス様とコルネリオ会のメンバーの皆様に、今も、心より感謝しています。コルネリオ会の活動と発展を祈りつつ、いくつかの「コルネリオ会に期待すること」を記させていただきます。

1. 入隊を希望する青年たちとその家族への助言

日本を取り巻く政治的、軍事的な課題が増し加わっている昨今の情勢です。

災害派遣や平和構築の取り組みについて、国際社会からの期待と要請も大きくなってきた中で、昨年は安保関連法案(平和安全法制関連2法)が成立し、今年の3月29日に施行されました。

これらの自衛隊の今後に関わるニュースや報道に接する入隊志望の若者とその親たちにとっては、現役・OBの自衛官からの助言や信仰者としての実体験の証しが、とても大きな支えとなります。

ここに、コルネリオ会のメンバーによる働きの第一の使命を見る思いです。

2. 一を聞いて十を祈れる共同体

与えられた立場と職務上の守秘義務ゆえに、キリス

ト者自衛官は家族にも、所属する教会の牧師にも、また、親しい兄弟姉妹にも、祈りの要請や「とりなし」を願うことが難しいのではないのでしょうか。この時にこそ、「共同の教会」に比べ得る「共同体」、「一を聞いて十を祈れる群れ」としてのコルネリオ会の存在があると思います。キリスト者自衛官の自宅や共に集える場所で、また、地域の教会の中など、各地の師団内にコルネリオ会の小グループが数多く誕生しますように、心より祈ります。

「まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」(マタイの福音書18章19～20節)

3. 階級内に、階級を超えて福音を伝える幸い

公私ともに、置かれている立場や責任、権限をひと時も忘れないようにと自覚し、指導されている現役の自衛官の皆さんは、全く異なった立場や階級の自衛官にアプローチすることが困難だと感じられるかもしれません。一般の企業以上に組織や階級が優先する軍隊や自衛隊では、ほぼ同等(同質)の階級内での証しと伝道が有効だと言われます。

その意味では、明治時代から続くコルネリオ会のビジョンと精神を受け継ぎ、中核を担ってきた階級での働きは、今後もさらに重要な意味を持ち続けることでしょう。

と同時に、現場での訓練や実務上の働きを担う階級の「若い隊員たち」への働きかけがますます必要になると思われます。聖書のみことばに記されているように、われらの神は、階級の中で、また、階級を超えてご自身の偉大なみわざを進められるお方です。

世界宣教の最前線は、今、私たちお互いのすぐそばに開かれています。

「・・・あなた方は行って、あらゆる<国>の人々を弟子としなさい。・・・」(マタイの福音書28章19節)

4. 心と魂のケアのための「隣人」と「架け橋」

40年前、会社訪問に伺った関西のある大企業の人事担当者が、私がキリスト者であることを知られて、「これからは、企業内にも『心』や『宗教的な領域(魂)』を扱える人が必要になってくると思う。」と語られていました。

確かに、「心」を扱うことのできる専門の医師やカウンセラーが自衛隊内でもその働きを進めておられます。けれども、現行の公務員法の制約の中では欧米の軍隊と違い、「チャプレン制度」の設置が難しい現実があるように見受けられます。今、それに変わる働きが急務と言えましょう。その鍵は、コルネリオ会のメンバーによる「隣人(となりびと)」としての働きと「架け橋」にあるのでは、と思わされます。

「喜ぶ者と共に喜び、悲しむ者と共に悲しむ」という「隣人」としての働きが、コルネリオ会のメンバーに託されています。また、「コルネリオ会」としての地域教会や牧師への「架け橋」の働きは、「顕在的」にも「潜在的」にも、期待され、その評価は高まることでしょう。

「コルネリオ会」の歴史とその真実な働きは、自衛隊の内外を問わず数多くの人々に「知られていないようで、確かに、知られている」時代が来ています。

「コルネリオ会」のこれらの働きに対しては、たとえ反対する人々があっても、彼らを含めた関係者の「内

面的な支援」や「暗黙の了解」のうちにも進んでいくことでしょう。

「いいですか。わたしが、あなたがたを遣わすのは、狼の中に羊を送り出すようなものです。ですから、蛇のようにさとく、鳩のようにすなおでありなさい。」

(マタイの福音書10章16節)

5. まことの「平和をつくる者」として

最近、日本のキリスト教会(教界)の中で、政治的な現状や自衛隊の運用に関する諸政策に反対する一部の者たちが、自分たちの位置付けや標語として、「平和をつくる者」という言葉を用い始めています。しかし、信仰の「友」と思っていた人々や、「平和」を叫ぶ信仰者のうちに「戦い」や「争い」が見え隠れしている姿は、とても悲しいものです。

平和(シャローム)とは、本来、「互いの間の正しい関係、人としての尊厳や人格の尊重、愛の関係、安心して生きる、神との平和、正義の支配」などを意味する言葉です。

また、「平和をつくる者」「Peace Making」は、歴史上、真実なキリスト者としての生き方を模索してきた様々な小さな群れや、共同体(ゲマインデ)の人々が見出して来た「信仰的实践を意味する言葉」です。対人関係や地域社会の「平和」を作り出すために「キリストの弟子である」ことを追求する中で、時には破壊的な現実と直面しながらも。

今、主イエス・キリストが語られた「終わりの時」の時代にあって、「コルネリオ会」とそのメンバーは「剣を託された者たち」として、本来の意味での「平和をつくる者」の一端を担う使命が委ねられているのではないのでしょうか。

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子と呼ばれるから。」(マタイの福音書5章9節)

なぜ自衛隊にキリスト教が必要か

私はかつて無神論者でした。むしろキリスト教を忌み嫌っていました。それにも関わらず40代にして信仰を持ち、今や聖霊に満たされて神のご計画にしたがって行動することに至上の喜びを感じている自分がいることに、

コルネリオ会会員 関 博之
自分でも内心驚いています。「風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」(ヨハネの福音書第3章第8節) まさ

にそのとおりです。2014年8月に洗礼を受けましたので、私の信仰歴は決して長いとは言えません。私がどのようにして救われたのかについては、既に以前のコルネリオ会のニューズレターで述べていますので、今回はこの場を借りて、「なぜ自衛隊にキリスト教が必要か」というテーマに私なりに挑戦してみることにします。

自衛官が入隊の時に必ず暗記させられる「自衛官の心がまえ」は次の5つの項目で成り立っています。①使命の自覚、②個人の充実、③責任の遂行、④規律の厳守、⑤団結の強化。つまり自衛隊の精強さを保つためには、自衛官1人1人がこれらを意識して実現していくことが求められているということです。逆に言えば、これらが1つでも守られなければ、自衛隊の精強さなど求めることができるはずもなく、自衛隊の存在意義そのものが問われる事態になりかねないということです。しかし実際は、悩みや問題を抱える自衛隊員が増える傾向にあるようです。最近、自衛官の不祥事がニュースで流れてもあまり珍しいと感じなくなってきたような気がします。2003年から2014年までの自衛隊員の自殺者数は合計1044人であるとのことであり、毎年約90名の自衛隊員が自ら命を絶っているということです。なお、この数字は一般職国家公務員よりも高い自殺率だそうです。また2015年9月に防衛省は「防衛省におけるパワー・ハラスメントの防止等に関する指針について」を発表しました。逆に言えば、それだけ自衛隊内でのパワー・ハラスメントの問題が深刻化しているということでしょう。

そもそも自衛官の心がまえが成立するためには大切な2つの前提があります。それは「希望」と「信頼」です。崇高な任務に関与できるという「希望」があるからこそ「使命の自覚」が芽生えます。自衛隊員として公私共に充実した生活を送るという「希望」があつて初めて「個

人の充実」が成り立ちます。自分に課された責任の重さを「信頼」できなければ「責任の遂行」は不可能になります。信賞必罰がしっかりと実施され規律が「信頼」に値するものであると認識されて初めて「規律の厳守」が成り立ちます。上司、同僚、部下が「信頼」できる存在でなければ「団結の強化」は絶対に成立しません。

つまり、今の自衛隊が精強性を取り戻すために必要なものは、希望と信頼だということです。そのために、多くの自衛隊員にイエス・キリストの「愛」という、絶対的に「信頼」を置くことができ、かつ「希望」を与えてくれる存在を知ってもらう必要があるのです。だから今の自衛隊にはキリスト教が必要なのです。

最近、日本を取り巻く安全保障環境は急速に変化してきました。残念ながら近い将来において、わが国を取り巻く環境は、緊張が高まることはあつても、より平和な方向に向かっていくとは、なかなか考えにくい情勢になってきています。そのような情勢下にあつて、国民からの期待は益々高まってきています。このため精強性を一刻も早く取り戻さなければなりません。そのためにキリスト者自衛隊員が果たすことのできる役割は、決して小さなものではないはずです。もちろん、自衛隊宣教は決して容易なことではありません。しかし我々クリスチャンは、常に神の加護の下にあることを認識しつつ、忍耐を以て一歩ずつ進んでいけば、必ず主の望まれる結果になることを確信するべきです。「主は、ある人たちがおそいと思つているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえつて、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであつて、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」(ペテロの手紙第二第3章第9節)

2016年度総会報告

6月11日(土)、2016年度コルネリオ会総会をエデン教会で実施し、2015年度の活動報告・会計報告と2016年度の活動計画・予算計画及び役員人事の審議を行いました。

2016年度の活動計画、役員人事、会計決算及び予算は以下のようになっています。異議のある方は会長(石川信隆)宛て1ヶ月以内に申し立ててください。

1 2016年度コルネリオ会活動計画

1 方針

- (1) コルネリオ会記念誌を発行し、コルネリオ会の先輩たちの歴史をたどるとともに、現在生きている私たちの「救いの証し」を残して後世に伝え、主の栄光を表わす。
- (2) 2016年東アジア大会(10月17日-20日、台北)に参加し、アジアの軍人たちと主の栄光を仰ぎ見る。

- (3) 毎月1回の例会を通して、聖書の学びおよび聖徒の交わりを行い、お互いに軍人クリスチャンとして励まし合う。
- (4) インターネットを通じて、コルネリオ会の存在を広く知らせ、会員の獲得に努める。

2 活動要領

- (1) コルネリオ会記念誌に各自の「救いの証し」を書いてもらい、編集・発行する。

(2) 例会

- ア 例会は、原則として毎月第2土曜日に開催する。
- イ 学び会は会員の霊的成長につながる集会となるようなプログラムとする。また聖書の学びに加え、祈り会によって現役会員の使命が達成されるように祈り合う。
- ウ 新来訪者を歓迎し、共に学び交わる環境を醸成していく。

(3) 広報

- ア 会員の証しや学び会での恵み等、ニュースレターの記事をさらに会員の霊的成長につなげる内容に改善し、会員の会活動への参画意欲を醸成して行く。
- イ 中央からの情報発信だけでなく、地方でのコルネリオ会活動（沖縄支部・関西支部・東北支部）の情報提供にも心がける。

(4) 宣教

- ア ホームページにコルネリオ会の例会・総会の議事録を載せる。また各国AMCF等のホームページの日本語での紹介等を実施して会員等が活用しやすいホームページ作りに着意する。
- イ 韓国軍人クリスチャンおよび防大生との交わりを継続し、信仰を深め励まし合う。

- ウ 宣教団体との協力を継続し、会員の霊的成長につながる情報を提供していく。

(5) 国外活動への参加と支援

- ア AMCF（世界軍人キリスト者の会）及びACCTS（AMCFの教育支援機関）との連絡・調整を維持し、相互の意思疎通を図る。

- イ 2016 東アジア大会(10月17日-20日)に参加する。

- ウ 2016年10月東アジア会長がLee Kap Jin からLtCol (Ret) Andrew Tzeng(台湾の前会長)に委譲するが、引き続き支援していく。

(6) 会計

- ア コルネリオ会記念誌の発行支援献金、活動の運営資金が備えられるよう、ニュースレター等を通じて祈り求めるとともに、支援者の獲得に努める。

- イ 予算の効率的な使用に心がける。

2 役員人事

役職	2016年度
会長	石川信隆
副会長	今市宗雄、中野久永
総務	芝祐治、関博之、圓林栄喜 檜原菜都子、加瀬典文
渉外	中野久永、藪内隆志
広報	圓林栄喜、芝祐治、中村誠一（沖縄支部）、松山暁賢（東北支部）
会計	長濱貴志
監査	玉井佐源太、滝口巖太郎
教職顧問	金学根、井草晋一、徳梅陽介
名誉会長	矢田部稔

3 2015年度決算

(2015. 4. 1 ~ 2016. 3. 31)

1 収入	献金一般	¥398,757
	2015Interaction	¥222,918
	クリスマス献金	¥0
	利息	¥60
	前年度繰越金	¥437,535
	合計	¥1,059,270
2 支出	講師・謝礼費	¥10,000
	ニュースレター作成・発送費	¥44,174
	新聞雑誌広告費	¥0
	集会費・例会会議費	¥0
	慶弔費	¥20,000
	接待交際費	¥10,840
	旅費交通費	¥0
	事務通信費	¥2,791
	雑費（振り込み手数料）	¥6,706
	献金（国内教会・海外へ）	¥10,000
	2015Interaction Japan 関係費	¥224,322
	小計	¥328,833
	2016年度への繰越	¥730,437
	合計	¥1,059,270

4 2016年度予算

(2016. 4. 1 ~ 2017. 3. 31)

1 収入	献金一般	¥350,000
	クリスマス献金	¥5,000
	利息	¥50
	前年度繰り越し	¥730,437
	合計	¥1,085,487
2 支出	講師等への謝礼・支援費	¥40,000
	ニュースレター作成・発送費	¥50,000
	新聞雑誌広告費	¥10,000
	集会／例会費	¥15,000
	慶弔費	¥20,000
	接待交際費	¥10,000
	国際会議参加費	¥20,000
	事務通信費	¥5,000
	雑費（振り込み手数料）	¥6,000
	献金（国内教会等へ）	¥10,000
	コルネリオ会記念誌発行・送付	¥200,000
	次年度への繰越	¥699,487
	合計	¥1,085,487

いつも献金をありがとうございます。

献金者名簿は紙面の都合上次掲掲載いたします。（編集子）

献金先：郵便振替（口座番号 00130-3-87577）

加入者名（コルネリオ会）